

福島第一原子力発電所 2号機海水配管トレンチ タービン建屋接続部における溜まり水の移送について

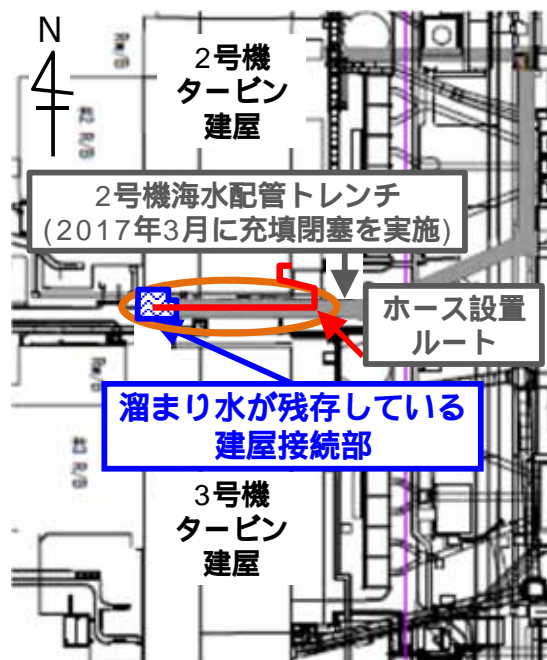
< 参 考 資 料 >
2019年6月18日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

- 2号機海水配管トレンチ※については、震災以降建屋内滞留水が流入していたことから、2017年3月に充填閉塞作業を実施したものの、タービン建屋との接続部（以下「建屋接続部」）については、建屋と連通している可能性があったことから、建屋滞留水の水位低下の状況に合わせて充填閉塞作業を行うこととしておりました。
- その後、建屋滞留水の水位低下が進捗し、建屋と連通している可能性があった配管貫通部の高さを下回ったところ、連通していなかったことを確認したため、6月19日から建屋接続部の溜まり水を2号機タービン建屋へ移送し、建屋滞留水と合わせて処理を行うこととしました。
- また、建屋接続部の溜まり水（約140m³）は、高濃度（全ベータ:約 1.8×10^8 Bq/L、セシウム134:約 1.4×10^7 Bq/L、セシウム137:約 1.8×10^8 Bq/L）であるため、移送にあたっては、ホースの二重化や、連結部への受けパン設置等の漏えい対策等、安全を最優先に進めてまいります。

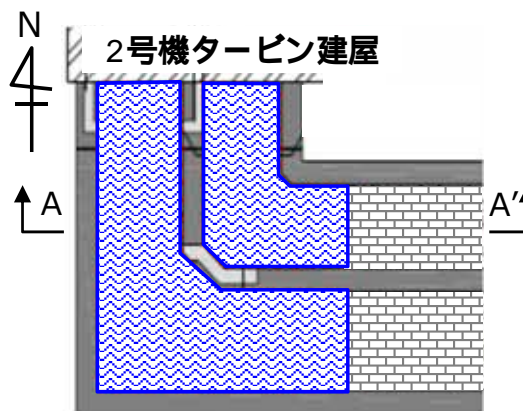
※：配管・ケーブル等を内包するための地下トンネル

建屋接続部の概要

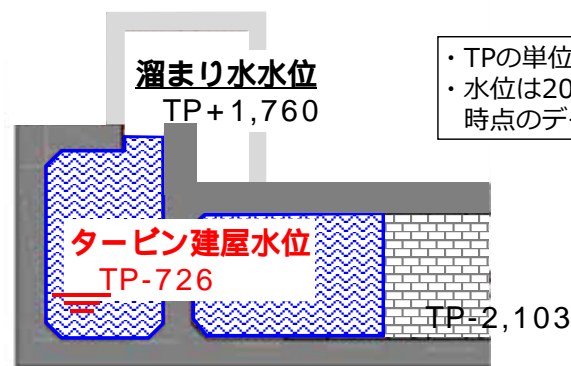


建屋接続部／ホース設置ルート

溜まり水残存部
拡大図



溜まり水残存部（建屋接続部）
を上から見た図



建屋接続部A-A'断面図